

内外教育

2022年(令和4年)6月3日(金) 第7001号
購読料金 月額4,400円(税抜4,000円)

●昭和21年12月12日 第3種郵便物認可 ●毎週2回火・金曜日発行
(但し祝日等を除く) ●発行所 〒104-8178 東京都中央区銀座
5丁目15番8号 時事通信社 ©時事通信社2022
誌面内容に関するお問い合わせ(編集部) educate@grp.jiji.co.jp
ご購読に関するお問い合わせ(業務管理部) dokusya@jiji.co.jp

時事通信社

目次

〈教育長はこう考える〉
松浦加代子滋賀県湖南市教育長に聞く
「楽しくて力のつく教育」を推進……………2~3

〈モンスター・ペアレント論を超えて〉
第534回 保護者対応トラブルに苦慮する背景(8)
—ベテランも苦悶
小野田正利・大阪大学名誉教授……………4~5

情報収集、資料閲覧で肯定評価
デジタル教科書導入に向けた中教審WG会合
……………6~7

全日中新会長に平井邦明氏
教員の勤務環境改善などに抱負……………8~9

〈あずの教育〉
竹内和雄兵庫県立大学准教授に聞く
新しいタイプの「ネットいじめ」とは…10~11

〈授業を創る〉
岩瀬俊介・学校法人石川高等学校教諭……………12

〈わたしの学校経営〉
小泉淳一・千葉県白井市立大山口小学校前校長
……………13

〈アンテナ・スポット〉▷JR利用に半額助成▷自宅PCから貸出券仮登録▷EXILEメンバー監修の教材導入、ほか……………14~18

〈ことば・ワンポイント〉
高校通信制教育の質保証……………17

〈教育法規あらかると〉
ゲーム依存症と読書の奨励……………19

〈ラウンジ〉食と生活の安全保障とSDGs……………20

多文化教育の視点

敬愛大学客員教授 ● 武内 清



経済や情報のグローバル化や地球の温暖化対策で国境の壁は低くなっていたが、新型コロナウイルスのまん延化が進み、国家単位の危機管理が求められ、また強国の弱国への侵攻やその恐れがあり、ナショナリズム(国家主義)が強まっている。そのような時こそ、多文化教育(multicultural education)が必要である。それは、社会的公正の立場から、多様な人々や多様な文化の共生を目指す教育理念である。それには、他者の立場から同じ事象を見てみる「変換アプローチ」が有効である。例えば、第2次世界大戦を、日本の視点からだけでなく米国の視点やアジアの視点、また、

男性だけでなく女性の視点、アフリカ系米国人や日系移民の視点から見て、多様な見方のあることを理解する。

また、多文化教育の視点は単一文化的視点や比較文化的視点(旅行アプローチ)とは違い、マイノリティ(少数派)の立場で考えることである。マジョリティー(多数派)も、社会的弱者への援助や異文化接触で自分たちも豊かになるという意識を持つ視点である。

これは、外国籍の子供の言語学習や学力の保証、アイデンティティ形成を図る実践で、それが日本の学校の在り方や学校文化を問い直し、豊かに

するという視点である。同時にジェンダー教育、特別支援教育、社会的格差の是正を考え、社会的公正を実現する教育実践である。

さらに、いじめ問題にも有効な視点であろう。北澤毅・間山広朗共編「囚われのいじめ問題」(岩波書店、2021年)を読むと、我々はいじめをいかに一方的に見ているかに気が付く。本書では同じ「天津市いじめ自殺事件」が、被害者、加害者、クラスメート、遺族、担任、学校、市教育委員会、新聞(全国紙、地方紙)、テレビによって、芥川龍之介の小説「羅生門」的に全く違って捉えられていることを鮮やかに描いている。このような多様な視点に耐えてこそ、解決の糸口がつかめる。

